クリスチャンライフ学院・シラバス

*年度・学期 2025 年度・秋学期前期 単位 1

*科目コード M25F04

*分野・科目名 家族「対話的存在である家族にあってメンターとして家族を生きるために」

*講義日程 木曜日 9/4・9/11・9/18・9/25〔・10/2〕

*講師 小林 宏繁

【講義の概要】

講義では、神のかたちに生きる家族：聖書に学ぶ対話と愛の回復を探求します。すべての人が、より良い夫婦、父母、そして親子関係を築くことは、神の御心にかなう道であると信じています。聖書の光に照らして日本社会の家族の現状を見つめるとき、夫婦関係、子育て、親子の繋がり、さらには看取りに至るまで、多くの家族関係の根底に断絶や不和があることがわかります。

私たちは、神のかたちに創られた対話的存在です。聖書の真理に基づいた愛と赦しに生きることは、家族関係においても実践は可能であり、そこにこそ神の栄光が現れます。家庭において「神との対話」「夫婦の対話」「異世代親子の対話」を回復し、互いに仕え合い、支え合い、赦し合える家族文化を今こそ、育む時です。

この探求と学びを通して、私たちは神のかたちに生きる者としての在り方を、共に聖霊の導きのうちに受講生とともに進めてゆきたいと思えます。

【目的】

「キリストの心をもって家族に仕えるクリスチャンメンターの在り方を共に探求し、祈りのうちにその学びを自身の生き方（CHRISTIAN IDENTITY）へと結びつけていく」

【目標】

「神が求めるクリスチャンメンターの3つの姿を探り理解し実践する」こと

「受講生が共に課題や Workshop を通じてより分かり合える関係を築けるスキル」を備えること

【講義プログラム】～神のかたちに生きる－家族関係の回復と【聖なる対話】～

ここでは、参加者が自らの家族関係にある「わかり合えなさ」に向き合いながら、それぞれの家族関係を俯瞰し自身の対話スキルを通じてメンターとしての仕え方を探求してゆきます。

【講義のテーマ】

第1回：「分かり合えない関係」から「分かち合える関係」へ
－神にかたどられた“対話的存在”としての回復

主題聖句：「神は人をご自身のかたちとして創造された。」（創世記 1:27）

神が私たちを対話する存在として創られたことは、人間関係の本質を示しています。しかし現代社会では、沈黙、誤解、断絶が私たちの関係を壊しています。

本講では、対話を取り戻すことが、神のかたちに生きる第一歩であるという真理に立ち、断絶から和解への道をとともに探ります。

◆ 「対話」は、神のかたちに生きる【回復の起点】です。

第2回：「分かり合えない夫婦」から「一つとなる夫婦」へ
－聴き合い、語り合う“聖なる絆”

【主題聖句】：「それゆえ、ふたりは一体となるのである。」（マタイ 19:5）

結婚とは、沈黙の共存ではなく、赦し合い、語り合い、祈り合う関係へと歩む招きです。神に結ばれた夫婦は、「対話」を通してお互いの内面に耳を傾け、心を通わせていくよう招かれています。

本講では、分かち合いの対話が、夫婦の心を結び直す鍵であることを聖書から学びます。

◆ 「対話」は、【夫婦を一体】にする【神の糸】です。

第3回：「分かり合えない父母」から「育み合える父母」へ
－祈りと対話に根ざした“子育てのかたち”

【主題聖句】：「あなたがたの子どもを主の教育と訓戒によって育てなさい。」（エペソ 6:4）

夫と妻が共に父母として歩む道には、価値観や役割への葛藤が生じます。しかし、互いを裁く言葉ではなく、真理と愛に基づく対話こそが、子どもを育む土台を築きます。

本講では、“心を合わせる父母”になるための霊的な対話の力をともに学びます。

◆ 対話は、【父と母を共なる育み手】とする【霊的な橋】です。

第4回：「分かり合えない親子」から「信頼し合える親子」へ
－神の愛に生きる 聴く心・語る勇氣

【主題聖句】：「わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる。」
（Ⅱコリント 6:18）

親子の断絶は、沈黙、怒り、無関心といった形で深まります。しかし、神が私たちに絶えず語りかけ、聴いてくださるように、親子関係にも“赦しと受容の対話”が必要です。

本講では、「分かってくれない」と感じてきた親と子が、“分かち合える対話”を通して信頼を取り戻す道筋を見出します。

◆ 対話は、【親子の心をつなぎ直す】ことを可能にする【赦しの扉】です。

～家族に仕えるありがたいメンターの姿； “霊的な案内人”としての核心～

① 【受け入れるメンター】 －隣人をありのままに受け入れる－

神学的根拠：「キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れ合いなさい。」（ローマ 15:7）

*キリストは、罪ある者、弱さを抱える者を拒まず、裁かず、愛をもって迎え入れられました。メンターもまた、家族の中で葛藤や傷を抱える人に対して、まず「受け止める」姿勢をもつことが求められます。評価や指導ではなく、【存在をまるごと包む赦しと包容の心】が、関係の土台を築きます。

②【聴くメンター】 – 心から傾聴し、共に歩む –

神学的根拠：「主はわたしの叫びに耳を傾けてくださった。」（詩篇 40:1）

「聞くには早く、語るにはおそく…」（ヤコブ 1:19）

*神は、祈る私たちの声を見捨てずに聴いてくださる方です。イエスもまた、多くの人々の心の叫びを遮らず、最後まで聴かれました（例：サマリヤの女、盲人バルテマイ）。

メンターは、表面的な言葉ではなく、沈黙や痛みの奥にある声に耳を澄ませる人です。

【聴くこと】は、最も深い愛のかたちであり、それによって相手は自分の価値に気づき始めます。

③【励ますメンター】 – 真の自分を生きる力を呼び起こす –

神学的根拠：「互いに励まし合いなさい。お互いを高め合いなさい。」（I テサロニケ 5:11）

「あなたはわたしの目に高価で尊く、わたしはあなたを愛している。」（イザヤ 43:4）

*神は、私たち一人ひとりを高価で尊い存在として創造され、それぞれに賜物と使命を与えられました。

メンターは、家族の中で失望や無力感を抱く者に対し、「あなたには価値がある」「神はあなたを用いられる」と希望の言葉を語る者です。

それは単なるポジティブな励ましではなく、神のまなざしに立った“霊的な確信”をもって背中を押す愛です。

講義と成績について

【出席】 (20%)

【事前課題】

① クラス開始前の事前レポート（自身と家族；妻・夫・父・母・子）を書いていただき自身と家族の関係性を対話から振り返りをクラスで分かち合います（10%）

「Workshop」： 対話スキルアップを毎回授業の最初に行い、シェアします。（10%）

② クラス事後のリフレクションレポートの提出（10%）

③ 4回の授業から「神が求めるクリスチャンメンターの3つの姿」について、神のかたちに生きる者としての生き方を総括したレポートを提出していただきます。（1200-1600字以内）

*指定された方法と期日内に提出していただきます。（50%）

【推奨参照 書籍5選】

（日本語訳あり／邦書含む）

1. 『キリストにならう（THE IMITATION OF CHRIST）』

著：トマス・ア・ケンピス

【主題】 霊的謙遜・自己放棄・キリストに倣う愛の姿勢

【活用ポイント】

- ・ 「キリストの心をもって仕える」とは何かを、内面から問い直す信仰書
- ・ メンターの3つの姿（受容・傾聴・励まし）すべてに通じる霊的土台
- ・ 対話において“沈黙の力”や“謙遜なまなざし”の大切さがにじむ古典的書籍

2. 『家庭は小さな教会（家庭における信仰形成）』

著：ロバート・ウェーバー、日本語訳：いのちのことば社

【主題】家庭を神の恵みの現場として捉え直す

【活用ポイント】

- ・ 「家庭は神のかたちを映す第一の場所」という講義の中心理念に合致
- ・ 父母、親子関係の信仰的役割や、世代間対話のあり方が実践的に展開されている
- ・ 家庭礼拝、日常の祈り、赦しの文化づくりの実例が豊富

3. 『赦すということ (FORGIVE AND FORGET) 』

著：ルイス・B・スミードズ、訳：中村妙子 (ヨルダン社)

【主題】対話と関係修復における赦しの神学と心理的理解

【活用ポイント】

- ・ 「分かり合えない関係」を癒すために、赦しのプロセスが不可欠であるという核心に対応
- ・ メンターが家族の中で葛藤・傷つきの背景をどう受けとめるかを深く学べる
- ・ 神学的理解と心理的洞察の橋渡しとして非常に有用

4. 『神のかたちに生きる：関係性の霊性とケア』

著：エリック・L・ジョンソン (Christian Psychology シリーズ)

【主題】人間の認知・関係性・神のイメージ (イマゴ・デイ) における神学的理解

【活用ポイント】

- ・ 認知・感情・思考の整理と「神のかたち」からの再構築
- ・ 「対話的存在としての人間」「ケアする者としてのクリスチャンメンター」の思想的根拠
- ・ 心理学と信仰の統合的アプローチによって深い学びを得られる

5. 『神との対話：霊的成熟への旅』

著：ヘンリ・ナウエン

【主題】対話と聴く祈りによって神との関係を深めるプロセス

【活用ポイント】

- ・ 「対話は聖なる営みである」という講義全体の霊的基盤と完全に一致
- ・ メンターとして「沈黙に聴く力」「言葉の重み」「霊的同伴のあり方」へ洞察が得られる
- ・ イエスの在り方に倣う「内的受容力」の育成にも効果的

◆ 補足：選書の観点

この5冊は以下の要件を満たします：

- ・ 聖書的・霊的対話の本質に深く迫る
- ・ 家庭・夫婦・親子における関係性を主題とする
- ・ 心理的・認知的背景に一定の理解を含む
- ・ メンターとしての「あり方・姿勢・祈り」に通じている

以下に、講義の主題（家族関係・対話・認知・赦し・傾聴・自己理解・回復的關係性）に深く関係し、信仰者でなくとも読める一般書籍（心理学・哲学・教育・家族支援などの分野）から、特に有益なものを5冊厳選してご紹介します。これらは講義内容を心理的・社会的文脈で補完し、参加者の理解を広げる助けとなります。

一般書籍で参照としたい5冊

1. 『本当の「聴く力」――人の話を聴くとはどういうことか』

著：東畑開人（文藝春秋）

【主題】傾聴とは何か／沈黙と共感の深い意味

【活用ポイント】

- ・ 「聴くメンター」に求められる姿勢を、心理臨床家の視点で明快に示す
- ・ 対話とは“技術”以前に、“在り方”の問題であることを学ぶのに最適
- ・ 会話ではなく“関係に耳を傾ける”という新たな気づきを得られる

2. 『アサーション・トレーニング―さわやかな〈自己表現〉のために』

著：平木典子（講談社現代新書）

【主題】自己主張と他者尊重の間にある「対話力」

【活用ポイント】

- ・ 対話スキル（特に家庭内）に必要な自己開示と共感的応答のバランスを学べる
- ・ 子ども・配偶者との衝突や沈黙の回避に悩む人に非常に有効
- ・ メンターが“安全な関係”を築くための心の態度と表現技術に役立つ

3. 『嫌われる勇気』

著：岸見一郎・古賀史健（ダイヤモンド社）

【主題】アドラー心理学に基づく「人間関係」と「課題の分離」

【活用ポイント】

- ・ 「家族に仕える」とは依存でもコントロールでもないということを示唆
- ・ 否定的な相手の態度に振り回されず、「尊重と自由」を土台にした関係の在り方を学べる
- ・ 家族の葛藤における“責任と距離”をどう持つかという視点が得られる

4. 『赦すということ』

著：マーナ・B・カッセルマン（いのちのことば社以外にも一般書として流通）

【主題】赦しのプロセスと心理的回復

【活用ポイント】

- ・ クリスマン以外の読者にも読みやすく、「赦せない相手」に対する心の整理を助ける
- ・ 家族間の過去の傷・親子断絶・夫婦の裏切りなどに対する向き合い方に優れたヒント
- ・ 「赦し＝忘れることではない」という成熟した理解を促進する

5. 『子どもが育つ魔法の言葉』

著：ドロシー・ロー・ノルト（PHP文庫）

【主題】親の言葉が子どもに与える影響／肯定・否定の力

【活用ポイント】

- 「親子の対話」が子ども心の形成にどれだけ大きな影響をもつかを平易に伝える
- メンターとして“語る責任”“沈黙の重み”を理解する助けとなる
- 多くの家庭に潜む「善意の圧力」の危うさにも気づきを与える